

## GPS/JIPS 安全性要約書

### 1. 物質名 (SUBSTANCE NAME)

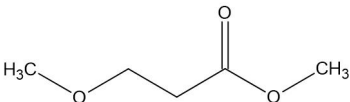
メチル-3-メキシプロピオネート (CAS 番号 3852-09-3)

### 2. 物質の概要 (GENERAL STATEMENT)

メチル-3-メキシプロピオネートは、無色透明の液体で、わずかに芳香臭があります。常温で安定であるものの、引火性があり、取扱い時には火気や火花に近づけないように注意して下さい。また、取扱い時に蒸気が発生する可能性があり、許容濃度が2ppmに設定されているため、閉鎖系施設、もしくは局所排気装置下で取扱う必要があります。

人体に有害であり、吸入すると生命に危険を及ぼす恐れがあります。眼に対して強い刺激性があります。また、飲み込んだり吸入すると生殖能又は胎児への悪影響の恐れ、神経系の障害の恐れがあります。そのため、換気の良い場所で、適切な保護具を着用し、眼の保護、皮膚の保護、吸入の防止を図る必要があります。

### 3. 化学的特性 (CHEMICAL IDENTITY)

| 項目       | 内容  |
|----------|---|
| 化学名又は一般名 | メチル-3-メキシプロピオネート  |
| 製品名      | ソルファイン-MP   |
| 別名       | 3-メキシプロピオン酸メチル  |
| CAS 番号   | 3852-09-3   |
| その他の番号   | 官報公示整理番号 化審法;(2)-1350、(2)-1379, 安衛法;2-(6)-610                                       |
| 化学式等     | CH <sub>3</sub> OCH <sub>2</sub> CH <sub>2</sub> COOCH <sub>3</sub>                 |
| 構造式      |  |
| 出典・備考    | 株式会社レゾナック発行の SDS 第 3 項  |

### 4. 使用・用途と適用 (USES AND APPLICATIONS)

|      |   |
|------|---|
| 主な用途 | 主にフォトレジスト用の洗浄剤として用いられます。その他にも、ペイント用溶剤、インクに利用されます。 |
|------|---|

### 5. 物理化学的特性 (PHYSICAL/CHEMICAL PROPERTIES)

無色透明の液体で、わずかに芳香臭がします。引火性があるため、保管時及び使用時は火気、火花などの着火源を避けて下さい。また、蒸気が発生する可能性があるため、風通しの良い場所で、密閉して保管する必要があります。

|              |                     |
|--------------|---------------------|
| 外観           | 液体                  |
| 色            | 無色透明                |
| 臭い           | 芳香臭                 |
| 融点/沸点        | < -60 °C / 142.8 °C |
| 引火点          | 47 °C (タグ密閉式)       |
| 爆発限界 (vol %) | 1.9 - 13.1 vol %    |
| 自然発火点        | 389 °C              |
| 蒸気圧          | 240 Pa (at 20 °C)   |

|                |                       |
|----------------|-----------------------|
| 相対蒸気密度 (20 °C) | 4.1 (空気=1)            |
| 相対密度           | 1.011 (at 20/20°C)    |
| 出典・備考          | 株式会社レゾナック発行のSDS第9,10項 |

## 6. ヒト健康影響 (HEALTH EFFECTS)

| 危険有害性項目  | GHSによる分類結果および評価コメント      |
|--|--------------------------|
| 急性毒性(経口)   | 区分に該当しない                 |
| 急性毒性(経皮)   | 分類できない                   |
| 急性毒性(吸入:気体)  | 区分に該当しない(非該当)            |
| 急性毒性(吸入:蒸気)  | 区分 4 吸入すると有害             |
| 急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)   | 分類できない                   |
| 皮膚腐食性/刺激性  | 区分に該当しない                 |
| 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性   | 区分 2A 強い眼刺激              |
| 呼吸器感作性   | 分類できない                   |
| 皮膚感作性  | 区分に該当しない                 |
| 生殖細胞変異原性   | 分類できない                   |
| 発がん性   | 分類できない                   |
| 生殖毒性   | 区分 2 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い |
| 特定標的臓器毒性(単回ばく露)  | 区分 1 臓器の障害 (神経系)         |
| 特定標的臓器毒性(反復ばく露)  | 区分に該当しない                 |
| 誤えん有害性   | 分類できない                   |
| 出典・備考  | 株式会社レゾナック発行のSDS第2,11項    |
| <p>・GHS (Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals): 世界的に統一されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類し、その情報をラベルで表示し、安全データシートを提供したりするシステムです。</p> <p>・区分に該当しない(非該当): GHSで定義される物理的性質に該当しないため、当該区分での分類の対象となっておりません。</p> <p>・区分に該当しない: GHS分類を行うのに十分な情報が得られており、分類を行った結果、GHSで規定するいずれの区分にも該当しないと考えられます。</p> <p>・分類できない: 分類を確定するための十分に信頼性のあるデータがなく、分類できません。</p> |                          |

## 7. 環境影響 (ENVIRONMENTAL EFFECTS)

| 危険有害性項目        | GHSによる分類結果および評価コメント |
|----------------|---------------------|
| 水生環境有害性 短期(急性) | 分類できない              |
| 水生環境有害性 長期(慢性) | 分類できない              |
| オゾン層への有害性      | 分類できない              |
| 出典・備考          | 株式会社レゾナック発行のSDS第12項 |

| 環境中の運命・動態   |  |
|-------------|--|
| 土壌中の移動性     | 情報なし   |
| 残留性・分解性     | 分解性予測; Biowin3: 良分解性でない、Biowin5: 良分解性  |
| 生体蓄積性       | Log Pow=0.10<br>生体蓄積性は低いと考えられます。   |
| PBT/vPvBの結論 | PBT(環境中に残留し、高い生物蓄積性と強い毒性を有する)、vPvB(環境中に非常に残留し、非常に高い生物蓄積性を有する)には該当しないと考えられます。 |
| 出典・備考       | 株式会社レゾナック発行のSDS第12項  |

## 8. ばく露 (EXPOSURE)

| 詳細     | ばく露の可能性   |
|--------|---|
| 作業員ばく露 | 当社製品は、十分に管理された閉鎖系・連続プロセスで製造されますが、作業において、メンテナンス、サンプリングおよび装置故障の際等に、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性ががあります (PROC2)。<br>バッチおよびその他のプロセスでの作業において、メンテナンス、サンプリング、充填、排出および装置故障の際等に、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性ががあります (PROC4)。<br>調剤や成形品製造におけるバッチでの混合・混和作業において、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性ががあります (PROC5)。<br>専用設備での船舶または大容量コンテナからの物質や調剤の移し替え作業において、蒸気、エアロゾルまたは流出、機器の清掃に関連した、経皮・吸入ばく露の可能性ががあります (PROC8b)。 |
| 消費者ばく露 | 本製品は、一般消費者にて直接使用されることはありません。  |
| 環境ばく露  | 当社製品は、通常、閉鎖系プロセスで製造され、使用されるので、環境中への放出の可能性は限定的です。  |
| 注意事項   | 他の用途におけるばく露の可能性がある場合、推奨するリスク管理措置を参考に適切な措置を実施して下さい。  |

## 9. 推奨するリスク管理措置 (RISK MANAGEMENT RECOMMENDATIONS)

推奨するリスク管理措置により、8項のばく露シナリオによる作業員、消費者及び環境に対するリスクは、最小化可能と考えられます。

| 詳細  | 推奨するリスク管理措置   |
|-----|---|
| 作業員 | <p>技術的対策・局所排気・全体換気：<br/>本製品は閉鎖環境でのみ取扱うか、局所排気装置のある場所で取扱う必要があります。みだりに蒸気、ミストが発生しないように取扱い、アース付き防爆電気機器のみを使用して下さい。<br/>取扱い場所近くに手洗い、洗眼設備、安全シャワー等を設け、その位置を明瞭に表示して下さい。</p> <p>許容濃度：<br/>設定されていません。<br/>米国 ENVIRON 社により、TWA(時間加重平均値)2ppm、STEL(短時間ばく露限界値)4ppm が公表されています。これらの値を下回るように、管理・制御して下さい。</p> <p>保護具：<br/>ばく露の可能性のある取扱い作業の際は、呼吸用保護具(認可を受けた捕集率90%以上のマスク)、自給式呼吸器および皮膚への接触を避けるため耐薬品性のあるゴム製保護手袋(APF20(防護率95%))、眼への刺激を避けるため密着性の高い安全ゴーグル、ゴーグル型保護眼鏡を着用して下さい。さらに、使用状況に応じて顔面保護具、耐薬品性の保護衣、安全メガネ付き化学用ゴーグルまたはフェイスシールドを着用して下さい。</p> <p>注意事項：<br/>作業責任者は、作業員に適切な保護具の選択や正しい使用方法、または作業現場の管理方法などの教育をして下さい。</p> |
| 消費者 | 当社製品は、一般消費者にて直接使用されることはありません。   |
| 環境  | 適切な排水処理施設や排ガス処理施設を設置する必要があります。また、漏洩防止策を講じ、定期的な排出量の確認、日常管理、取扱いに注意を払って下さい。  |

|                  |  |
|------------------|--|
| 特記事項(漏出時の緊急措置など) | <p>人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:<br/>         作業の際には、飛沫が皮膚に付着したり、ガス、蒸気を吸入しないように、適切な呼吸用保護具、保護衣、手袋、眼及び顔面用保護具を着用して下さい。管轄外の職員は立ち入り禁止し、風上から作業して下さい。着火した場合に備えて、消火剤(二酸化炭素、水噴霧、粉末、耐アルコール泡)を準備して下さい(火災拡散の恐れがあるため棒状注水は使用しない)。</p> |
|                  | <p>環境に対する注意事項:<br/>         漏出した製品は吸収剤(砂、土、パーミキュライトなど)で回収し、河川、下水、排水路等へ流れ込むのを防止して下さい。環境中へ拡散した場合、粘土あるいは珪藻土のような不活性な固体を使用し、できるだけ早く製品を回収してください。</p>   |
| 注意事項             | <p>通常での取扱い、緊急時対応、廃棄時、輸送時の管理措置は、株式会社レゾナック発行のSDSの4,5,6,7,8,13,14項を参照して下さい。</p>   |

## 10. 政府機関のレビュー状況 (STATE AGENCY REVIEW)

| 有害性評価                               | レビュー状況  |
|-------------------------------------|---|
| IPCS<br>(国際化学物質安全性計画)               | 国際化学物質安全性カード<br>・情報なし   |
| OECD<br>(経済協力開発機構)                  | 高生産量化学物質(HPV chemicals)点検計画<br>・情報なし  |
| NITE-CHIRP<br>(NITE 化学物質総合情報提供システム) | <a href="https://www.nite.go.jp/chem/chrip/chrip_search/srhInput">https://www.nite.go.jp/chem/chrip/chrip_search/srhInput</a> |

## 11. 法規制情報/GHS分類情報・ラベル情報

### (REGULATORY INFORMATION/GHS CLASSIFICATION AND LABELLING INFORMATION)

| 法規制情報                |   |
|----------------------|---|
| 労働安全衛生法              | 通知対象物質ではありません   |
| 毒物及び劇物取締法            | 通知対象物質ではありません   |
| 消防法                  | 第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1・第4類)                          |
| 船舶安全法                | 引火性液体類(危規則第2, 3条危険物告示別表第1)  |
| 航空法                  | 引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1)   |
| 港則法                  | その他の危険物・引火性液体類(法第20条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表)                    |
| 道路法                  | 車両の通行の制限(施行令第19条の13、(独)日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2)<br>第二石油類非水溶性液体 |
| 特定有害廃棄物輸出入規制法(バーゼル法) | 特定有害廃棄物(法第2条第1項第1号イ、平成30年環境省令第12号)イ又はロに掲げるエーテル以外のエーテルを含む物         |
| 化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) | 通知対象物質ではありません   |
| 国連分類                 | 3   |
| 国連番号                 | UN1993 FLAMMABLE LIQUID, N.O.S.                                   |
| GHS 分類情報             |   |
| 物理化学的危険性             | 引火性液体 区分 3  |

|       |                           |
|-------|---------------------------|
| 健康有害性 | 急性毒性(吸入:蒸気) 区分 4          |
|       | 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分 2A    |
|       | 生殖毒性 区分 2                 |
|       | 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分 1(神経系) |

| ラベル情報     |  |
|-----------|--|
| 絵表示又はシンボル |                       |
| 注意喚起語     | 危険   |
| 危険有害性情報   | 引火性液体及び蒸気 (H226)<br>強い眼刺激 (H319)<br>吸入すると有害 (H332)<br>生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い (H361)<br>臓器の障害 (神経系) (H370) |

## 12. 連絡先 (CONTACT INFORMATION)

|                |                             |
|----------------|-----------------------------|
| 会社名            | 株式会社レゾナック                   |
| 住所             | 山口県周南市開成町4980               |
| 担当部門           | 情報電子化学品事業部 ソルファイン部          |
| 電話番号 / ファックス番号 | 0834-64-0806 / 0834-62-0997 |

## 13. 発行・改訂日、その他の情報

### (DATE OF ISSUE / REVISION, ADDITIONAL INFORMATION)

発行日: 2021年9月2日

改訂:

| 改訂日         | 改訂項目            | 改訂箇所    | 版     |
|-------------|-----------------|---------|-------|
| 2021年12月28日 | 6, 7, 13.       | 最新情報に更新 | rev.2 |
| 2022年12月28日 | 11,13           | 最新情報に更新 | rev.3 |
| 2023年 1月 1日 | 3,5,6,7,9,12,13 | 社名等変更   | rev.4 |

記載の情報は、2023年1月1日改訂版の安全データシート(SDS)に基づいています。

## 14. 免責条項 (DISCLAIMER)

安全性要約書は、化学産業界の自主的化学品管理の取組み(GPS/JIPS:Japan Initiative of Product Stewardship)の一環として作成されたものです。安全性要約書の目的は、対象品に関する安全な取扱いに関する情報を概要として提供することであり、リスク評価のプロセス及びヒト健康や環境への影響などの専門的な情報を提供するものではありません。また、安全データシート(SDS)や化学品安全性報告書(CSR)などのリスク評価に代わる文書として作成されたものではありません。本安全性要約書は、発行時点で入手可能な法令、資料、情報等のデータに基づいて、できる限り正確な記載に努めておりますが、すべてのデータを網羅したわけではありません。また、いかなる保証をするものでもありません。